青空文庫（1）「吾輩は猫である」（48）夏目漱石　　月　　日　名前

見ながら練習

なぞって練習

この主人がどうかいうと一向とりえのない男である。学校へ出ては教師をしている。教師は生徒を教えるのが職業だからやむをえないようなものの、実はやりたくもないのである。教師になったのは、つい、この方が便利だからというような事情のためで、別段これをやりたいという考えがあってやったのではない。

ただ生活の方法がこれ一つしかないからやむをえないのである。だから主人は教師を勤めている間は、いつでもやめたいと思っている。やめたいと思うのは、教師ほど厄介な職業はないと考えているからである。

主人は大きな包みを提げて帰ってきた。

※提げ：さげ（青空文庫内読み仮名より）
※渾名：あだな（青空文庫内読み仮名より）
※平の宗盛にて候：たいらのむねもりにてそうろう（青空文庫内読み仮名より）

copyright (c) まる字の無料ペン字練習と漢字検定テキスト集 all right reserved.